

## 第 1 回

にじゅうござんまいえ

# 二十五三昧会を作ろう！

2013年5月4日（土）

13：00～15：00 岡本寺小堂

ゲスト：上農哲朗医師（おおむち診療所）



にじゅうござんまいえ

「二十五三昧会」は、過日（3月20日）行われた「舎羅林堂・

合同供養&講演会」で神代尚芳医師がDVDを通じて「これから独居老人がどんどん増えてくる。公（おおやけ）だけではカバーできない。二十五三昧会を作れ！」と訴えられたことを受けて動き出した企画です。神代先生は10年ほど前からこれを提唱されていたのですが、我が家も含め超高齢社会に突入したことを実感している昨今、今から始めないと間に合わない、兎に角スタートすることにいたしました。

にじゅうござんまいえ

さて、「二十五三昧会」という聞きなれない言葉ですが、ウキペディアによると「二十五三昧会（にじゅうござんまいえ）とは、平安時代に結成された念仏結社である。986年（寛和2年）に比叡山内横川にあった首楞嚴院で、25人の僧が結集して結成された念仏結社である。この結社の性格は、極楽往生を希求する念仏結社であり、月の15日ごとに僧衆25名が集結して念仏を誦し、極楽往生を願った。彼等の「発願文」に、善友の契りを結び、臨終の際には相互に扶助して念仏することを記していた。——（中略）——病んだ結衆を往生院に移した時は、二人一組となって昼夜の別なく従い、一人が看病、一人が念仏を担当する。」つまり、平安時代の天台宗のお坊さんたちが極楽往生するためにナイショで作ったグループで、死期が迫った時、グループの誰かが看取りを行ってくれるという共同体です。その頃の僧侶は原則独身です。山深いところで単独で修行している人もいたことでしょう。その人たちが看取りあう仲間を作ったというものです。

それでは、岡本寺が呼びかけて作ろうとしている「二十五三昧会」はどんなものになるか。実はまだどんなものになるか何にも決まっていないのです。見本になるものも私は知らないのです。みんなで集まって、話し合っ、学びあって、交流を深める中で、みんなで創っていきたいと考えています。

現在、独居の方も多と思います。お連れ合いに先立たれたら独居になる方、子どもさんが独立されたら独居になる方など、このご時世ですから、多くの方が独居になる可能性を持っています。だからいろんな方が早くから知り合っ「誰かが体調を崩したらお手伝いするよ」という相互扶助的なゆるやかな集まりを作っておきましょうという感じです。

今回は、歴史上の二十五三昧会の勉強、ゲストの上農哲朗先生のお話、自己紹介などです。かたくるしくない会にしていきたいと思っています。どうぞご参加ください。

2013年3月20日に行われた「舎羅林堂・合同供養&講演会」のDVDをお分けいたします。（今、編集中）送料込み1,000円でいけると思います。神代先生の名言「手遅れの幸せ」や当日の上農先生のお話が入っています。

申込は、ハガキかTEL/FAX072-793-0203かEメール<[vyku11976@nike.eonet.ne.jp](mailto:vyku11976@nike.eonet.ne.jp)>まで。